



あきつ



梅雨に入りました。大雨が気になる季節です。

今週初め、8日に九州北部地方が梅雨入りしました。昨年に比べると9日ほど早い梅雨入りのようです。そして、ニュースでは『今週は警報級の大雨が降る恐れがあり、注意を呼び掛けています…。』と注意喚起を促していました。実は先週末、安全担当の教師に「冠水する道路の情報を集めてください。新しく来た者もいるので共通理解を図りましょう。」と指示したばかりだったのです。日曜日のニュースでは、月曜日の朝から『少し強く降る』予報だったため、私は「メールを出すか…」と考え、文面を準備しました。ところが、時間の経過とともに少しずつ予報がズれてきて、降水量も数ミリの予報だったので、とりあえずは大丈夫と判断し、月曜日を迎えました。朝、正門の所で子どもたちを待っていると、風はやや強かったものの、子どもたちはいつものように元気に登校してくれて、安心しました。

しかしながら、これからは大雨を心配する時期になります。子どもたちが安全に登下校できますようご家庭におかれましても、降雨時の注意喚起のお声掛けをよろしくお願いいたします。



学校横の読売販売店前の道路が冠水（2023年大雨時）

※9日付のすぐーるで、今後の大雨等の自然災害を想定した学校の対応『自然災害等の登下校の対応について』を添付ファイルにして配信しております。ご確認のほどよろしくお願いいたします。

※今週金曜日(13日)は、引き渡し訓練が実施されます。これも事前(5/27付)のすぐーるで『引き渡し訓練の流れ』を添付ファイルにして配信しております。スムーズに引き渡しができますようご協力よろしくお願いいたします。

「ことばのちから」 ～学校集会より～

6月は「心のきずなを深める月間」です。今年度のテーマは、『いじめをゆるさない！みんなでいじめをなくしていこう～一人ひとりがいじめについて考えよう～』です。

令和6年度熊本市心のアンケートで、いじめを受けたと答えた児童生徒は4792人でした。内容は「冷やかされ、からかい」が最も多く、軽はずみな言動から深刻な事案に発展したケースも少なくありません。そこで11日の学校集会で「ことばの力」について、子どもたちに話をしました。

【学校集会での話】

みなさんは、毎日たくさんの「ことば」を使っていますね。「おはよう」「ありがとう」「だいじょうぶ？」など、あいさつや気づかいのことばは、言われると心があたたかくなります。

でも、反対に—何気なく言ったひとことが、だれかを深く傷つけてしまうこともあります。たとえば、「そんなのもできないの?」「キモい」「うざい」…こうしたことばを言われたら、どんな気持ちになりますか?

今日のお話では、そんな「ことばの力」について考えてみましょう。(中略…ここで2つの事例を挙げて、子どもたちに考えてもらいました。)

ことばには、人の心を「くもらせる力」も、「晴れにする力」もあります。だからこそ、わたしたちは「どんなことばを使うか」を大切にしなければいけません。

何気ないひとことに、「言った人の思い」が隠れているんです。自分のことばで、だれかを笑顔にできるなら、それってすごいことですよね。

今日からちょっとだけ、ことばの使い方を見直してみませんか?

「うれしくなることば」「やさしいことば」「元気をあげられることば」—そんなことばを選べる人になっていきましょう。

ゆうたさんの話①

「えー? またまちがえたの? 練習してきた?」

その言葉を聞いたゆうたさんは、しょんぼり…



ゆうたさんの話②

「まちがえても気にしないでいいよ。いっしょにれんじゆうしよう!」

やさしいことばで、ゆうたさんはうれしくなり、やる気が出ました。



子どもたちは、時折首を横に振ったり、「ダメだよ」と反応したりしながら、真剣な表情で話を聞いてくれました。今後、日常生活の中で意識してくれることを願っています。